

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	THB104C	プレゼンテーション演習 II C	
科目名（コード）	THB104	プレゼンテーション演習 II C	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	HB1	単位数	2単位30
授業担当者	渋谷里美	時間数	
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	選択必修
実務者教員特記欄			講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	国際力、人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で学生が異なる文化背景を持つ他者への理解力を高めるために、現代の社会課題に対して多様な視点から考えられるようになる。
全体の内容と概要	日本文化をはじめ様々な文化圏を分析し、自分の言葉で多文化圏の人々にその魅力や違いを説明する力を身につける。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるために予習が必須である。
履修上の注意事項等	自分の考えをまとめる、堂々と明確な表現力をつけるために、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。授業時間内に模擬面接を実施する予定。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化理解① 文化の違いを理解できる	見える文化と見えない文化 『おもてなしの日本語』第5課－1
2	異文化理解② 共生するための努力ができる	見える文化（食べ物・衣服・音楽・ダンスなど） 『おもてなしの日本語』第5課－2、敬語①
3	異文化理解② 共生するための努力ができる	見えない文化（誤解や衝突、価値観、時間の感覚） 『おもてなしの日本語』第5課－まとめ、敬語②
4	異文化理解③ 日本に関心をもつことができる	見えない文化（異文化の中で働くには） 『おもてなしの日本語』第6課－1、敬語③
5	異文化理解④ 日本の世界遺産 日本に関心をもつことができる	日本の世界遺産① 日本の文化遺産の概要を知る 『おもてなしの日本語』第6課－2、敬語④
6	異文化理解⑤ 日本の世界遺産 日本に関心をもつことができる	日本の世界遺産② 日本の文化遺産のうち一つを取り上げ、調べ、特徴をまとめる、 『おもてなしの日本語』第6課－まとめ
7	異文化理解⑥ 日本の世界遺産 日本に関心をもつことができる	日本の世界遺産③ 日本の文化遺産について調べ、特徴をまとめる→発表する（日本紹介） 『おもてなしの日本語』第7課－1
8	自己分析① 自身を分析し経歴を述べる事が出来る	自身の経歴をまとめる 『おもてなしの日本語』第7課－2
9	自己分析② 自身の仕事について考える	自身の強み、自身の志向を知る 『おもてなしの日本語』第7課－まとめ
10	自己分析③ 自身を上手にアピールすることが出来る	自身をアピールする 模擬面接
11	日本の「まつり」について① 「まつり」について概要を知る	日本の「まつり」について概要を知る 『おもてなしの日本語』第8課－1
12	日本の「まつり」について② 「まつり」について、意見を交わ	日本の「まつり」について調べて、考える→グループワーク 『おもてなしの日本語』第8課－2
13	日本の「まつり」について③ 「まつり」について発表する	日本の「まつり」について発表する 『おもてなしの日本語』第8課－まとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『おもてなしの日本語』
参考文献・資料等	適宜配布
備考	火曜日2限